

新・生物多様性国家戦略素案（事務局案）

目次

前文	1
第 1 部 生物多様性の現状と課題	4
第 1 節 生物多様性の危機の構造	4
1．第 1 の危機	4
2．第 2 の危機	5
3．第 3 の危機	6
第 2 節 社会経済状況の変化	7
1．主な社会経済の動向	7
2．国民意識、社会的意識の変化	8
第 3 節 世界における日本の生物多様性	10
1．世界の生物多様性の概観	10
2．日本の生物多様性の特徴	11
3．日本の自然環境特性と生物多様性	11
(1) 生物多様性を支える気候と地形の特性	11
(2) 植生と生物相の概観	12
(3) 地域特性に応じた自然環境の特徴	13
第 4 節 生物多様性の現状	16
1．生物種の現状	16
2．生態系の現状	21
第 5 節 生物多様性に関連する制度の現状	25
1．自然環境保全に係る地域指定制度の概要	25
2．各種保護地域制度等の現状	25
第 2 部 生物多様性の保全及び持続可能な利用の理念と目標	27
第 1 節 理念	27
1．人間生存の基盤	27
2．世代を越えた安全性・効率性の基礎	27
3．有用性の源泉	28
4．豊かな文化の根源	28
5．予防的順応的態度	29
第 2 節 目標	30
第 3 節 国土空間における生物多様性のランドデザイン	31

第3部 生物多様性の保全及び持続可能な利用の基本方針	33
第1章 施策の基本的方向	33
第1節 3つの方向	33
1. 保全の強化	33
2. 自然再生	33
3. 持続可能な利用	34
第2節 基本的視点	36
1. 科学的認識	36
2. 統合的アプローチ	36
3. 知識の共有・参加	36
(1) 情報公開・参加・合意形成	36
(2) 環境教育・環境学習	37
4. 連携・共同	37
5. 国際的認識	37
第3節 生物多様性からみた国土の捉え方	39
1. 生物多様性からみた国土の構造的把握	39
(1) 奥山自然地域	39
(2) 里地里山等中間地域	39
(3) 都市地域	41
(4) 河川・湿原等水系	42
(5) 海岸・浅海域・海洋	43
(6) 島嶼地域	44
(7) その他の留意点	45
2. 植生自然度別の配慮事項	46
第2章 主要テーマ別の取扱方針	49
第1節 重要地域の保全と生態的ネットワーク形成	49
第2節 里地里山の保全と持続可能な利用	52
第3節 湿原・干潟等湿地の保全	56
第4節 自然の再生・修復	59
第5節 野生生物の保護管理	62
1. 種の絶滅の回避	62
2. 猛禽類保護への対応	62
3. 海棲動物の保護と管理	63
4. 野生鳥獣の科学的・計画的な個体群管理システムの確立	64
5. 移入種(外来種)問題への対応	65
第6節 自然環境データの整備	67
第7節 効果的な保全手法等	72
1. 効果的保全のための環境アセスメント	72
2. 国際的取組	74

第4部 具体的施策の展開 (1)

第1節 国土の空間的特性及び土地利用に応じた生物多様性の保全と持続可能な利用	(1)
1. 森林・林業	(1)
2. 農地・農業	(19)
3. 都市・公園緑地・道路	(24)
4. 河川・砂防・海岸	(32)
5. 港湾・海洋	(42)
6. 漁業・漁港	(46)
7. 自然環境保全地域・自然公園	(57)
8. 名勝・天然記念物	(66)
第2節 野生生物の保護と管理	(70)
1. 絶滅のおそれのある種の保存	(70)
2. 野生鳥獣の保護管理	(72)
3. 移入種(外来種)等生態系への攪乱要因への対策	(76)
4. 飼育栽培下における種の保存	(79)
第3節 生物資源の持続可能な利用	(81)
1. 生物資源の持続可能な利用	(81)
2. 生物遺伝資源の保存と提供	(84)
3. 遺伝子組換え生物の利用における安全性確保	(87)
第4節 自然とのふれあい	(91)
第5節 動物愛護・管理	(102)
第6節 生物多様性に関する調査研究・情報整備	(104)
第7節 教育・学習、普及啓発及び人材育成	(113)
第8節 社会資本整備における環境配慮	(124)
第9節 経済的措置等	(127)
第10節 国際的取組	(134)
1. 生物多様性条約の下での取組	(134)
2. 生物多様性関連諸条約との連携強化	(136)
3. 国際的プログラムの推進	(138)
4. 開発途上国への協力	(143)

第5部 戦略の効果的実施

第1節 実行体制と各主体との連携

第2節 各種計画との連携

第3節 戦略実施状況の点検と戦略の見直し